

地域協創活動への取り組み

作井 亨*¹ ・若松 正浩*²

A Initiatives for Regional Cooperative Activities

Toru SAKUI*1 and Masahiro WAKAMATSU*2

1. はじめに

当社は東北・北海道地区を主たる経営基盤として業種に即した営業部門/事業部門を配置し、それぞれのお客様を深耕するスタイルで事業を推進していた。昨今お客様のビジネス環境は急激に変化しており、例えばコロナ禍の影響による社員の働き方の改革、スマートデバイスによる消費行動の変化(テイクアウトやネット通販等)により、DX (Digital Transformation)の推進が企業の生き残りに必要不可欠になってきた。また、お客様へ価値あるサービスを提供するに為には、お客様含め各種ステークホルダが関係する業界情勢等にも視野を広げていく事が非常に重要となっている。

横断型基幹科学技術推進協議会は縦横のつながりを 重視する団体である。本会への入会により、各業界に精 通している会員様の知見が得られる事、また新たな人脈 を形成し、当社の視野が更に広がることを期待すると供 に、DX 時代に相応しい新たな気づきを得られる貴重な 場として取組んでいきたい。

2. 当社の紹介

Received: 2 February 2023.

当社は1984年に仙台の地に設立されて以来,北海道・東北を中心に、日本全国、そして世界へとお客様の範囲を広げながら、業務内容を拡充させてきた。当社の使命はICT技術を使ってお客様の課題を解決する事であり、お客様そしてお客様の先につながる社会に対しても貢献するサービスを提供していきたいと考えている。

会社概要は下記の通り.

- (1) 本 社:宮城県仙台市
- (2) 事務所: 事業所 札幌/川崎 システムセンタ 盛岡・秋田・青森
- (3) 社員数:1,129名(2022年4月1日現在)
- (4) 事業領域

「地域事業」、「日立グループ分担事業」、「全国・グローバル型事業」の3つの事業ドメインで人材・技術・ノウハウを計画的に循環させ、事業の推進を図っている。

3. 産学官連携の取組みに関して

地方都市である仙台に本社を置く当社にとって,地域活性化は経営上の重要な課題のひとつである。また,地域においても,進学・就職等により若い世代の首都圏への移住で急激な高齢化や過疎化が進行し,また,人口の減少による人手不足も深刻化している。

これらの課題に対して DX の推進は、変化の激しい時代の中で競争優位性を維持し続けるための解決策であり重要なテーマとなっている。また、その推進に際しても、従来の枠組みを越えて、地域に高品質のサービスを提供する為には、産学官連携による真の協創が必要になると考える。以下に取組み事例を紹介する。

<道の駅 IoT デジタル化アプリの実証>

地域の有力拠点のひとつである「道の駅」をフィールドに地域活性化について検討した[1].

実証においては、国立大学法人北海道国立大学機構 北見工業大学及び遠軽町が運営する「道の駅遠軽森のオホーツク」の協力を得て、フードコートで利用出来る、 モバイルオーダアプリの開発・実証を行った。モバイル オーダアプリとは、利用者が飲食席を確保後に、自身の スマートフォンで注文から決済まで完結出来るサービス である。注文/支払時の混雑解消に繋がり、また、コロ ナ禍における感染に気を遣う利用者へソーシャルディス タンスを保つ事が出来るサービスである。

^{*&}lt;sup>1</sup>株式会社日立ソリューションズ東日本 北海道イノベーショ ン本部

^{*2}株式会社日立ソリューションズ東日本 事業企画本部

 ^{*}¹Hitachi Solutions East Japan,Ltd., Hokkaido Innovation Div.
*²Hitachi Solutions East Japan,Ltd., Business Planning Div.

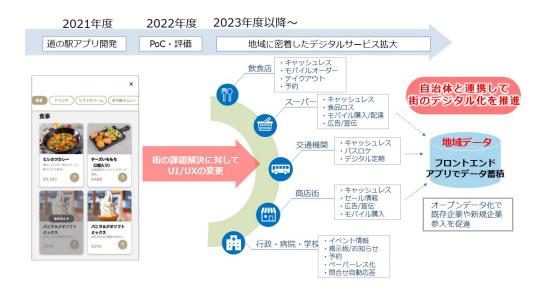


Fig. 1: 地域プラットフォーム構想.

4. 今後の展開

現在実証中のモバイルオーダーアプリの利用者からのアンケート分析を通じて、地域に特化したコンテンツの更なる充実を図ると共に、多様なコンテンツが利活用出来る、「地域プラットフォーム」(Fig. 1 参照)への発展を考えている。また、同時に近隣の道の駅や自治体との連携を進め、市町村の枠を超えて地域全体のデジタル化を推進していく計画である。これらを実現する事により、地域に新たなビジネスや雇用の創出、住民サービス

の更なる充実に寄与できると考える. さらに地域の DX 推進には、 DX 人材の育成が必須事項である為、今後は その教育サービスにも注力していきたい.

参考文献

[1] 国土交通省ホームページ, https://www.mlit.go.jp/road/ir/ ir-council/shin-michi-no-eki/index.html